

さいたま赤十字病院

さいたま赤十字病院は、災害時の救急医療の拠点となる「災害拠点病院」に指定されています。そのため、被災者に対する適切な医療の提供に必要な施設設備を整備しているほか、少しでも、迅速かつ円滑に活動ができるよう、医療救護班をはじめとした病院職員の訓練に、日々努めています。

大規模災害発生時の職員の派遣や傷病者の受け入れ体制



さいたま赤十字病院では、大規模災害発生直後から活動ができるDMAT(災害派遣医療チーム)をはじめとした医療救護班を常備しています。

また、当地域で災害が発生した場合には多数の傷病者の受け入れも見込まれることから、傷病者の重症度に基づき、治療の優先度を決定し選別を行うトリアージや、仮設テント内での応急処置といった、あらゆる事態や場面を想定した訓練を定期的に行っています。

医療救護班の派遣実績(昭和60年以降の主なもの)

- S60年 日航機墜落事故
- H23年 東日本大震災
- H7年 阪神・淡路大震災
- H25年 埼玉県竜巻災害
- H16年 新潟県中越地震
- H26年 御嶽山噴火災害
- H19年 新潟県中越沖地震
- H27年 関東・東北豪雨災害
- H20年 岩手・宮城内陸地震
- H28年 熊本地震



県内のDMAT
合同訓練の様子

災害発生に備えた施設の機能

緊急時に備え普段の80%のエネルギーで3日間は自家発電できるよう、屋上に非常用発電機を2機設置し、それを動かす為の燃料として、平面駐車場の地下には9万リットルの重油タンクを備蓄しています。災害時には多目的ホールや待合室などあらゆる場所が医療行為を行う場所になるので、それぞれの場所で医療ガスも利用できるようにしています。

屋上非常用発電機



救急車をはじめ病院所有の救護車両で、医師や看護師自ら被災現場まで駆けつけます



積層ゴムアイソレーター

病院建物本体は鉄骨の免震構造になっています。土台には水平方向にやわらかく動く鉛プラグ入り積層ゴムアイソレーターと、揺れを吸収するオイルダンパーを併用しているため、震度6程度の揺れを3~4に抑えることができると期待されています。

読者モニターさんの声



三雲 明美さん

積層ゴムアイソレーターの頑丈さに驚きました。ヘリポートやその他の設備など防災は事前準備が大切なんですね。



三雲 勇一さん

災害時に患者さんを素早く受け入れるためのヘリポートなど、安心安全が行き届いていますね。



柴原 早苗さん

赤十字がいざという時に機能できるよう、市民各自が責任ある行動をとらなければいけないと感じました。



高橋 義文さん

災害派遣医療チームなど、赤十字の使命の大きさと救助体制を充実させる必要性を改めて感じました。



大林 未来さん

免震構造がしっかりしていて、新しく機能的な施設だと分かり、安心しました。

防災の最前線基地としてさいたま市に求められる役割

さいたま市は比較的安定した地盤を有し、東京湾との間に輸送ルートを確認できることから、東北、北陸の玄関口として、首都直下地震の際に対策の運用を支える北部方面の最前線基地として位置付けられています。

特にさいたま新都心周辺は、国の出先機関や医療機関が集結するなど、防災拠点としての整備が進んでおり、災害時には首都圏の機能をバックアップするための最前線としての役割を期待されていることから、本市では「広域的な安心・安全なまち」の実現に向け、まちづくりを進めています。



災害時どうなる? 教えて! 施設見学レポート

さいたま新都心に立地する「国土交通省関東地方整備局」と「さいたま赤十字病院」ではどのような備えをし、災害時にはどういった体制で人命救助やインフラの復旧を行おうと考えているのでしょうか? 読者モニターの皆さんとそれぞれの施設に行き、その取組について見学してきました!



まちづくり広報誌korekara
読者モニターの皆さん

国土交通省関東地方整備局

大規模自然災害時には、被害状況等を地図上にわかりやすく表示し迅速に情報収集・共有ができる総合災害情報システム(DiMAPS)を活用し、道路、河川等の管理施設の被害状況を把握することで、早期復旧を行っていきます。また緊急輸送路や通行可能ルート等の支援ルートの確保や、自治体等の支援要請に基づきTEC-FORCE(テック・フォース:緊急災害対策派遣隊)が迅速に出勤し、被災状況の把握、被害の発生・拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する技術的な支援を行います。

大規模災害発生時の職員等の現地への派遣体制

災害発生直後から迅速かつ円滑に応急対策活動を実施するため、TEC-FORCE等の動員計画や広域派遣のタイムラインをあらかじめ規定しています。災害時、TEC-FORCEは、一時的な進出目標である広域進出拠点へと出勤した後、TEC-FORCE総司令部の指示に従って、緊急輸送ルートの確保や緊急排水活動、被害状況の調査などを実施します。

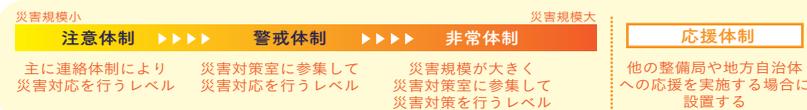


TEC-FORCEによる熊本地震時の
給水支援

TEC-FORCEの活動実績(平成27年以降の主なもの)

- H27年 関東・東北豪雨への派遣
- H28年 熊本地震への派遣
- H28年 台風10号一連の台風への派遣
- H29年 九州北部豪雨への派遣 など

災害発生に備えた施設の機能



災害対策本部室(見学の様子)



地上140m屋上にあるヘリポート

災害の発生またはおそれがある場合、災害対策本部を設置し、災害対応を行います。

災害対策本部では災害対策の報告や調整、意思決定を行います。巨大プロジェクターには各種情報が表示され、国土交通省や各事務所、関係機関等とのテレビ会議を行うこともできます。

200名の収容人数を誇る災害対策室では河川、道路、港湾、空港など8つの専門グループが災害の種類や規模に合わせて情報収集や整理、指示を行うほか、応急復旧について検討を行います。また、地上140mの屋上にあるヘリポートは災害発生時、被災地の情報収集や被災地への人員輸送を行うためのヘリコプターが使用します。

読者モニターさんの声



佐瀬 正俊さん

地方整備局のヘリポートは災害情報の収集を主な目的とするヘリコプターが利用することを初めて知り、防災に対する国の備えをよく知ることができました。

災害発生時における 日本大学法学部大宮キャンパスの 使用に関する協定

首都圏における災害に迅速かつ適切に対応するため、災害発生時に日本大学法学部大宮キャンパスをTEC-FORCEの進出本部として使用することについて国土交通省関東地方整備局・日本大学法学部・さいたま市の3者での協定が平成28年7月に締結されました。



吉野 忠夫さん

災害対策室の椅子に河川班、道路班と各班ごとに違う色のベストが掛けられていたのが印象的でした。とてもリアルで緊急時の様子が目に浮かびました。



野代 幸一さん

災害対策本部では、被災の状況に合わせて柔軟に体制を変えていることが分かり驚きました。子供たちにもこうした施設について、教えてあげたいと思います。